

ゴビンダ通信

No.16

発行：無実のゴビンダさんを支える会
事務局

Justice for Govinda

- Innocence Advocacy Group

February.15.2004

兄インドラさん、横浜刑務所に服役中のゴビンダさんに初面会！

昨年12月2日、坊主頭で囚人服姿になったゴビンダさんに、ラダさんが離日前の面会をしたのを最後に、ゴビンダさんと私たちとの連絡は途絶えました。

ゴビンダさんの居場所がわからないまま、不安の内に年を越した私たちが、「年末から横浜刑務所に服役している」との情報をようやく得ることができたのは、1月もなかばのことでした。この知らせを受けた兄のインドラさんが、忙しい仕事の合間を縫って来日。1月25日から2月8日までの2週間に7回、服役後のゴビンダさんに面会をすることができました。ゴビンダさんの近況を伝えるインドラさんからのメッセージをお届けします。

支援者の皆さま。ナマステ！

今回は、私が弟のゴビンダに日本で会う2回目、そして東京拘置所から横浜刑務所に移ってからは初めての機会でした。

彼がどうしているか、刑務所の中の生活はどういうものなのか気がかりで仕方ありませんでした。会ってみると、彼は以前と変わることなく、ネパール式の挨拶をしてくれました。彼はとても悲しそうで、その顔つきは、限りないほどの苦悩とさまざまな心配事がふえていることをうかがわせるものでした。彼がまず尋ねてきたのは、ネパールの家族のことです。小さな娘たちのこと、年老いた両親のこと、そして言うまでもなく愛する妻のことなどです。

彼が抱えている一番の深刻な問題は、夜眠れないということ、あるいはたとえ眠れても安眠できないということです。「ぐっすり眠ることさえできれば、100年だって耐えられるんだけど」と彼は申しました。不眠を何とかするために東京拘置所にいるときは睡眠薬を常用していましたが、自然な眠りを得ようと試みるために、ここ数ヶ月は薬をやめています。

私は、自分が知っている限りで、瞑想とかヨガのやり方を説明し、気持ちを落ち着け、リラックスして安眠できる方法について話しました。このことは、何回かの面会で引き続き話題にのぼりました。3度目の面会するとき、ゴビンダはなんだか生き返ったような表情で、笑みを浮かべて現れました。昨夜は、2時間熟睡できた、と彼は言いました。そのことで気持ちが楽になり、元気づけられたと言うのです。

刑務所での生活についても語ってくれました。まず、早朝の起床合図から始まります。その後は、夕方までびっしりと規則や規律づくめの毎日を送っています。日中は紙袋を作っていると言っていました（これはその面会のときのことで、現在はすでに別の場所に移り、仕事の内容も変わったようです）。刑務所の看守からいろんな指示をされたり命令を受ける際に、言葉がよく理解できず失敗をするということも時折あります。

彼は無実であっても、ほかの受刑者と同じように、こうした厳しい規律にしたがった生活を続けていくしかないのです。

お風呂は週2回入ることができます。また、同じく週に2度は、刑務所内の芝の上でジョギングをすることもできます。彼は他に7名の人と一緒に大きな部屋に入れられていて、その窓からは空や外の様子を見ることができます。

いずれにしても、ここ横浜刑務所は、東京拘置所よりはいくぶんでも居心地が良いようです。彼が四六時中気に病んでいるのは娘たちのこと、今後どう育っていくのか、また良い教育を受けさせてやりたいということです。

ゴビンダから支援者の皆さまに次のように伝えて欲しいとメッセージを預かってきました。

「みなさんが私と会えなくとも、みなさんのことは、いつも私の胸の中にあります。どうか私を愛し続け、支援し続けてください。そうした支えがあつてこそ、私は何とか生き抜いていけるのです。神様が皆さまを祝福されますよう！」

私インドラからも、ゴビンダとその家族を助けるためのさまざまな活動と貴重な経済的ご支援に対して、すべての支援者の皆さまに特別の感謝の気持ちを お伝えいたします。皆さまからのカンパがなければ、ネパールのような遠い国から、こんなふうにしばしばゴビンダに会いに日本にやって来ることはとうていできませんでした。

皆さまからお寄せいただいたお金は、1円たりともおろそかにせずに、有効に使わせていただくことをお約束いたします。

支援の中心をになっている皆さま、状況に応じて適切な判断を下し、刑務所当局との折衝やネパール大使館との調整そのほか、ゴビンダのためにあらゆる機会をとらえて可能な限りのやり方で活動してくださっていることに、特別の感謝を申し上げます。

最後に、ゴビンダが自由になるその日まで、どうか引き続きご支援いただきますよう、お願いいたします。ありがとうございます。

インドラ・プラサド・マイナリ

2004年2月6日 支援者との交流会にて

山田会長、役員のみなさま。そしてここにおられるすべてのみなさま。ナマステ！

まず、この集まりに参加させていただき、直接ご挨拶する機会を与えてくださったことに感謝いたします。不正義に対するたたかいにおいて輝かしい歴史をもたれ、人道的目的のために尽力されているこのような重要な組織が、この典型的でかつ顕著な差別の事例である事件をとりあげていただき、この不正にたいして継続的にたたかっておられることに対して、私がとても感謝していることを、お伝えさせていただきます。

最高裁が、悲しむべき偏向した決定をくだしたことで、ゴビンダは精神的な衝撃を受け、家族の苦難も何倍もの大きさになってしまいました。何の罪も犯していないにもかかわらず、彼はいま、犯罪者であるかのように、刑務所で厳しい規則にしばられたつらい生活を送っています。

横浜刑務所で弟に会ったとき、彼はこう申しました。「どうしてこんなひどい目にあわなければならないのか？ 犯罪など犯していないのに。」彼の表情には、想像を超えるほどの限りない精神的な苦悩があらわれていました。

ゴビンダの弁護団は東京高裁に再審を請求することを検討しています。もちろん、数ヶ月なり十分な時間をかけて議論を重ねた上、適切なタイミングで実行に移すことになるでしょう。来月弁護団は横浜刑務所に面会に行く予定です。ゴビンダはぜひ再審を請求して今後も闘うべきだと考えています。闘うすべが残っている限りは刑務所でおとなしく現状を受け入れるつもりはないとのことです。このような状況をふまえると、彼の苦難をできるだけ耐えやすいものにし、また完全な自由を回復するためにやらなければならないことはまだまだあります。この事件を、今後も取り組むべき重要な活動リストの中に入れ、ゴビンダへのご支援を継続していただきますよう、全てのみなさまに、お願い申し上げます。

ゴビンダとその家族にかわって、みなさまのすばらしいご支援に、もう一度お礼を申し上げます。
インドラ・プラサド・マイナリ

2004年1月31日 日本国民救援会・中央委員会にて

～～～ インドラさん来日中の活動 ～～～

1月25日(日)	羽田到着
1月26日(月)	横浜刑務所でゴビンダさんと初面会
1月27日(火)	2回目の面会
1月28日(水)	3回目の面会・刑務所に対する要請
1月29日(木)	弁護団と会見
1月30日(金)	4回目の面会
1月31日(土)	国民救援会・中央委員会にて支援の訴え
2月02日(月)	5回目の面会
2月04日(水)	6回目の面会
2月05日(木)	ネパール大使館訪問
2月06日(金)	7回目の面会。支援者との交流会
2月08日(日)	帰国の途へ

□ □ 3月学習会のお知らせ

『恵庭冤罪事件・控訴審開始を目前にして』

日時 3月2日(火)午後7時から9時
会場 幼きイエス会(1階104号室) *JR四谷駅「麴町口」徒歩1分
内容 ビデオによる事件解説
講師 山口正紀氏(ジャーナリスト・「人権と報道・連絡会」)
[不当な一審判決から1年。東京から秋山弁護士他4名が弁護団に加わり、いよいよ控訴審の初公判が3月22日から札幌高等裁判所で始まります]

□ □ □ 4/3 無実のゴビンダさん支援集会のお知らせ

日時 4月3日(土)午後2時から5時
会場 幼きイエス会(9階ホール) *JR四谷駅「麴町口」徒歩1分
内容 ●再審裁判について/柴田五郎弁護士(布川事件再審弁護団長)
●再審に向けて・ゴビンダ弁護団からの報告/佃克彦弁護士
●「支える会」のこれまでの活動と今後の方針/事務局
●インドラさんのビデオ・アピールとゴビンダさんからのメッセージ
●冤罪・再審の当事者、支援者の方たちからの一言アピール
[支援組織の発足から上告棄却までを振り返り、今後の活動の方向性を論議し、再審を視野に入れた長期的な支援継続について、共に考えましょう]

□ □ □ 事務局会議

- ▼毎月第2火曜日 午後7時～9時 現代人文社：信濃町駅下車徒歩5分
<次回は3月9日(火)>
- ▼ゴビンダさん服役後の対策を再確認し、「4・3支援集会」開催に向けて再審を含めた今後の展望について協議する予定です。

☆☆☆ 事務局より ☆☆☆

「無実なのに刑務所で暮らすのは、一日たりとも耐えられない苦しみだ。しかし、たとえ刑期が1年や2年延びてもかまわないから、何としても再審をしてほしい。自分は、無実なのだから再審で闘うのだということを、これからも心の支えにして生きていく」。そのように弁護団と支援者に伝えてほしいと、ゴビンダさんはインドラさんに話したということです。私たちは、あらゆる努力を尽くして獄中のゴビンダさんと家族を支えながら、長い困難な道のりを共に歩いていく決意です。ゴビンダさんが冤罪の苦しみから完全に解放される日まで、皆さまの変わらぬご支援をお願いいたします。

無実のゴビンダさんを支える会 事務局

東京都新宿区信濃町20 佐藤ビル201 現代人文社気付 留守電・FAX 0426-37-8566

e-mail : mainali@anet.ne.jp ホームページ <http://www.jca.apc.org/~grillo>